津田昇平教話　第三話

令和三年一月三日　朝の教話

おかげを受けたら、参らんとおかげはいただかれん。

おはようございます。令和三年の一月三日、三が日の最後の日をお迎えさせて頂いております。

昨日も申し上げましたけど、ここ数日、越年祭の時からですね、お話をさして頂くことが増えて、そこで信心の稽古（けいこ）ということをよく口にしている、ということを申し上げました。それは、教祖様が「氏子（うじこ）の願（ねが）い礼場所（れいばしょ）、信心の稽古場所」と、お広前（ひろまえ）のことをそう仰ったんですよね。このお広前っていうのを、氏子の願い礼場所、氏子の神様へお願い申し上げる、お礼を申し上げる、そういう場所であると。まあそうですね。神様をお祀（まつ）りしていますから。

氏子の願い礼場所、信心の稽古場所。信心の稽古場所というのんでも、

学校であったり予備校みたいなもんで、教えて下さるお結界（けっかい）の先生がいらっしゃって、心中祈念（しんちゅうきねん）さしてもらって、神様に申し上げたり、お礼申し上げたりするのもそうですし、自分を見つめるのもそうですし、自習室があったり。言わば、ここは教室で、今、私が教話（きょうわ）をさして頂いているってなると、先生がいて生徒がいて、話を聞かして頂く。そういう教室なんですよね。学校なんですよ。

で、稽古（けいこ）という言葉を使った時に、稽古場所というのは、やっぱり二つあるなぁと。一つは、このお広前（ひろまえ）が稽古場所ですよね。ここは、稽古をつけてもらう稽古場所なんです。じゃあそれ以外は？って言ったら、

お広前を出てから、あるいは教会の中でもいいんですけれども。教会を出てからというより、お広前を出てからでしょうね。

それ以外の場所。家であったり、歩いている時であったり、食事をしている時とか、お風呂に入っている時とか、学校行ってる時、仕事をしている時。あるいは、第二教職舎（きょうしょくしゃ）で典楽（てんがく）のお稽古をしていたりとか。

どんな時でも、このお広前で参拝、御祈念（ごきねん）、御取次（おんとりつぎ）を頂いている時を外した時、それは、このお広前という、「神様の御前（みまえ）」っていう意味なんですけど、広前っていうのは。ここでのお稽古をつけて頂いているのとは違って、自宅で、あるいは学校以外で勉強する、お稽古する、まあそういう場所ですよね。

つい私、自分が浪人をしていましたので、大学受験のね。まあそれをしていたものですから、予備校をついイメージするんですけど。予備校に行って、講義を聞いて。勉強する時は、教室に居ちゃいけませんので、どこでやるかと言うたら、自習室で、そこで自分で勉強したりするんです。

終わったら当然、帰ったり、お昼に少し公園に行ったりってしてました。そこで、電車通学の間であっても、単語帳見たりとかね。そういう時間をみては、勉強するわけです。帰ってからも、また勉強したりしますよね。そこで、勉強をするんですね。それ、教わったことの理解を深めたり、問題に取り組んだり。出来たところ、出来なかったところ、理

解が浅いところを見つけ出して、そこをより理解が深まるようによく考えたり、場合によったら、またお尋ねしたりってなるわけですけれども、分からんかったらまた予備校に行って、どなたか先生を捕まえて質問したりする。

これ言わば、稽古で言うたら、稽古をつけてもらうわけですよね。そしてまた、予備校を出て自宅に帰って、そこでまたノート開いたり、教科書出したりして、また勉強する。これ自分で、自宅でお稽古をしているわけです。勉強ですわね。

信心も同じで、お参りをして、このお広前で稽古をつけてもらうという稽古場所というのんと、お広前を出てから、自分の身の上の生活、わ

が身わが一家を練習帳にした、その場所で。まあわが身ですから、自分の身の上が、体があるところはどこでも、信心のお稽古になるわけですら。筆も要らんしね、ピアノも要りません。自分の心が神様に向かって、それで信心になるわけですから、じゃあ、その信心のお稽古っていうのは、いつでもどこでもできるんです。じゃあそれは、いつでもどこでも、自分の身があるところが、信心のお稽古場所になってくる。

「家業（かぎょう）の業（ぎょう）である」って教えもありますね。家業って、お商売してる人やったらまさに家業ですけど、昔の時代やったら、皆さん家業を何か持ってるのが普通ですから。でも今は、会社に勤めたりという形になる

でしょうね。育児をされてたりとかいう方も、もちろんいらっしゃるでしょう。介護をされてたりという方もいらっしゃるでしょう。学生さんであれば、学校に行ったりとか。ちっちゃい子供さんやったら、幼稚園に行ったりとか。全部一緒です。

つまり、仕事場であれ、自分の受け持っているお役というのがありますから、そこで、その場で、お稽古（けいこ）をさしてもらいましょう、と。今やったら、社会人の方やったら、朝に通勤して、夕方か夜か分かりませんけれども、そこまで仕事をさしてもらって帰ってくる。じゃあ、その間の時間というのは、起きてる時間の大半がそうなりますよね。そこで信心のお稽古をしない、となってきたら、もう全然時間がないですよね。

でも、信心というのは、もう目が覚めた時からずっとできますし、まあ寝てる間も信心できたら一番ですけどね。でも、もう本当に、目が覚めて、意識がなくなるまでの間、自分の心を神様に意識的に向けて、信心のお稽古はできるわけですね。信心の稽古をしながら、何かをするということの方が正しいかもしれませんね。そういうことができる。

その信心の稽古（けいこ）というのんでも、このお広前（ひろまえ）は信心の稽古をつけてもらう場所であって、教祖様は、清書を持ってきて、それを手直ししてもらう場所なんだという表現をされたりね。

稽古をつけるという言葉で言ったら、昔、祇園（ぎおん）かどこかでね、舞妓（まいこ）さ

んの、何か話があったんですよね。お参りをされたこともあった方なんですけれども。その方が、お師匠(ししょう)さんに稽古をつけてもらうと。稽古をつけてもらうという言葉をよう使ってはるなぁというのが、ちょっとよく耳についてたんです。

その時にも信心の稽古場所ということを、話したこともあったと思います。このお広前は信心の稽古をつけてもらう。つけてもらった稽古を、教会を出てから実践していく。稽古に取り組んでいく。そういう意味があるなぁと思います。

それでお稽古が進んで行ったら、ひと言で言うたら、信心のお稽古を続けて行ったら、おかげを頂く器が出来てきますんで、お礼申したり、

お願いしたりする中で、おかげは頂くことができます。信心したらおかげ頂けますね。

その時にね、その次の話で言った時に、教祖様はね、「おかげを受けたら」、信心してですよ、おかげを頂けるようになったら、「おかげを受けたら、参らんとおかげはいただかれん」っていうふうにして、お話をされているんですよね。市村光五郎（いちむらみつごろう）さんの伝えにありますけれども。

おかげを受けたいと思って、最初は参ってくると。まあ全てじゃないでしょうけれども、それが一つのきっかけが多いでしょうね。

おかげを受けたら、そこからは参らんとおかげは頂かれん。でもね、

おかげを頂いたらね、お参りの足が途絶える人っていうのは、少なくないんですよ。まあ、喉元(のどもと)過ぎたらっていうことでしょうね。おかげ頂いて、しばらくお参りしていなくても、それまでの信心の蓄えみたいなものがあったりしたら、それでなんとかおかげは頂けるんですけれど、でも本当に足が遠のいていくと、やっぱりお参りをせんかったら、おかげは頂けん、ということになってくるんですよね。

で、この「おかげを受けたら、参らんとおかげはいただかれん」っていうのは、もうちょっとその前にやりとりがあるんですけれどね。ちょっと読んでみましたらね、

天地日月生神金光様（てんちじつげついきがみこんこうさま）が、

「参るな、参るなと言えども、参らんとおかげは受けられんぞ」

と申され。

で、続いて、

「参るなと言うのは、参ってもおかげを受けねば、足がくたびれたり大切な金がみて（尽き）たりすれば、氏子（うじこ）、難儀（なんぎ）となる。それで、金光が参るなと言うのぞ」

で、その後に、

「おかげを受けたら、参らんとおかげはいただかれん」

【理Ⅰ　市村光五郎二・三一より抜粋】

よく「無理して参るな」みたいなね、そういうご理解も人によってはされてます。まあ、人によってはです。でも基本的には、よくしっかりと参っておかげを頂きなさいということなんですけど。で、「参るな」っ

ていうふうにして仰ることがあったんでしょう、金光様がね。

「参るな」と言うのは、参ってもおかげを受けねば、足がくたびれたり、大切なお金が尽きてしまったり、氏子が難儀になる。

「参ってもおかげを受けねば」これはどういうことですかね。参ったら、おかげが頂けるのに、参ってもおかげを受けねば、受けてくれなければ、ということでしょうね。これはまあ要するところ、お参りして信心して、参っておかげは頂けるはずなんですけれども、それでも参って、ただ参っておかげを受けてくれないということは、これ、この数日話をしている、稽古（けいこ）が進んでいないということなんですね。

稽古が進んでいないということは、器の作り方を学びに来ているのに、

参るだけ、あるいは拝むだけ。拝み信心になっている。祈念祈祷（きねんきとう）してもらう。祈念は自分がする、と。拝んで。で、「金光さん、あんたご祈念しといてや」言うて。「あんた祈祷屋やろ、神様と仲ええんやろ。これこうってお願いして、頼むで。わしはもうそんな難しいことはようせんから、頼むで」って、任せっきり。

これじゃあ、自分自身が改まっておかげを頂く器を作る、っていうことができませんわね。難儀をもししていたのであれば、おかげを頂くことができてないということを見ると、なんか自分の命というのが、天地（てんち）の道理（どうり）からちょっとずれているところにある。まあそれが、その人自身の責任なのか、先祖からのめぐりの責任なのかはちょっと置いといて、い

ずれにせよ、その人は一生懸命生きているにせよ、おかげを頂くところから、ちょっとずれているところにおるわけです。心がね。そこを、ちょっと戻さんといかん。修正せんといかん。

せやけど、「自分は変わる気はないけれども、参って来たんやから、おかげくれ」と。「あんた、ほら、お供えするからご祈念してくれや」と。「はい、お金。はい、ご祈念しといてや」言うて。「わしゃ変わる気ない」と。これはあきませんわね。

自分が改まるとか、自分が変わるという気がなかったら、どんなに来ても意味はないんですよ。そら参ってる言うても、身勝手な信心というほかないというふうにして、ご理解がありますけれどもね。

昨日も言いましたでしょ。予備校に行って、学校に行って、習い事をしても、教えてもらったことを全然聞かんかったら、これ上達しませんわね。ピアノを習いに行って、ピアノの先生に教えてもらっても、全然違う我流（がりゅう）でやっていたら、そら上達しないでしょうね。バレエを習うでもそうでしょうね。もう身勝手な形でやってたら、そら上手いこといかんでしょう。習字でもそうでしょうね。

信心も手習いも同じこと。「参ってもおかげを受けねば」っていうのは、参っても、神様のお話、金光様のお話をよう聞かずに、身勝手な信心を続ける。そういうことではおかげにならんから、もうそんなんやったら、

足も、お前くたびれるだけやないか。お金も無駄(むだ)になるから、そんなんやったら、もう参らんときや。つまり勉強する気がないんやったら、お金もったいないからもう塾やめたら、いうことなんです。結構バッサリですよね。

塾で考えたらですよ、「教えて下さい」言うて、ほんで来るわけです。ほんでまあ、お金を、月謝を払ったりとかね。で、ちょっと遠いところで、電車で行く場合だってよくありますよ。じゃあ電車賃もありますもんね。それで、ちょっと食事をって思ったら、お弁当なり、パンなりを買ったりっていうのもあるでしょうね。

でもね、わざわざ電車に乗って、西宮(にしのみや)に、予備校というか塾に行くと。

昨日、そんなお届けがありましたんでね。小学校の子がそうやって行くと。でもこれ、行って勉強して、なるほどと思って、楽しいなぁ、面白いなぁ、勉強が楽しいぐらいになってくれたら一番いいですよ。楽しくなくても、学びがあって成長できたらそれでいい。

けれども、行ったはいいけれども、全然話を聞く気がない。塾の先生が一生懸命、時間をかけて話をしてくれても、こっちがあんまり聞く気がない。つまり、器が作れない。だから、成長もしない。学力も伸びない。「こんなんなるんやったら、まあはっきり言うたら、君、全然やる気ないやろ」と。「聞いてないやん。寝てるやん。遊んでるやん。それじゃあ、足もくたびれるし、お金も無駄になるし、もうやめたら?」ってい

うことになりますわね。

それを「参るな」と言うとるんです。金光様がね、「参るな参るな」と言うのは「参ってもおかげにならん。身勝手な信心をしているようじゃ、おかげにならんから、そないなったら、足がくたびれるだけやし、あんたの大切なお金も尽きるばっかりで、あんた、よけい難儀（なんぎ）になるで」と。「それやったら来るだけ無駄やから、もう参らんときって言ってるんや、私は」と。金光様がね。

とは言っても、「え、じゃあ参らんでいいんですか。じゃあ、もう行かんときます」って素直に馬鹿みたいに聞いてたらですよ、そらまあ、おかげ頂けませんわね。

ま、裏を返したら、そんなことを金光様に言わしてる、まあこの人に言ってるかどうかは分かりませんけど、そんなふうにして言われるということは、裏を返したら、ほんまに信心しておかげを頂いてもらいたいですから、ちゃんと信心してほしいんだと。身勝手な信心にならんように。「お供えだけしとったらそれでええやろ」とか「拝んどったらそれでええやろ」「拝んどってくれや」と言うとか。いや、そうじゃないと。

話を聞いて助かる神様やから、その話を聞いて、ああ、なるほどなぁと思って、そして信心をしてくれ、と。まあこんなこと言わしてくれるな、ということなんでしょうね。だから「参るな」と言うのは「もう勉強をする気がないんやったら、信心の勉強する気がないんやったら、も

う参らんとき」言うて。「でも、本当はおかげが頂きたいんやろ。だったら、神様がどんなに頑張(がんば)っても、どんなに私（金光様）が頑張っても、あなたがその気がなかったら、もうどうにも成長はできんのやから。あんたの心が湿(しめ)っとったら、火はつかんから。だから心を入れ替えて、学ぶ、教えて頂く。そういう気持ちにしっかりなりなさいよ」と。

昨日も言いましたね、み教えでね。「拝むのを」拝む、ご祈念(きねん)する。「拝むのを聞いて習うというような心になれば、おかげがある」って仰いましたね。拝むのを、とにかく祈念祈祷(きねんきとう)というそういうのをちょっと止(や)めて、話を聞いて学ぶ、習うというその心。その心になったら、おかげになる。そしたら、おかげを頂けます。

でも、おかげを頂いたら、そしたらやっぱり、そっから先はしっかりとお参りをせんとおかげは頂けませんよ、ということですよね。「おかげ頂いた、よかったよかった」言うても、やっぱりね、習い事っていうのんは、やめたらまあ腕は落ちますよ。やっぱり、続いている間はね、行ってる間は、何でも習い事ってそやと思います。習い事じゃなくても、クラブ活動でもいいですよ。吹奏楽でもそうでしょうしね、別に何でもいいですよ。よう通っている間はね、上達していきます。

で、どんなにみっちりやっても、そら中高一貫で六年やったとか、大学まで行って、もうちょっとプラス四年やったとか。それで十年やった。じゃあそれだけ、十年続けてたんやったら相当でしょうね。でもね、や

っぱりそういう学ぶ機会、お稽古(けいこ)する場所、そういう機会が、チャンスが減ってくると、「自分はもう、好きやから自宅でもちゃんとやるわ」て思っていてもですよ、そりゃ嘘(うそ)じゃないでしょうね。せやけども、学ぶ機会は減っても、でも自宅で一人で毎日でもやろうって思っても、そうはいかないんですよ、やっぱりねえ。稽古をつけてもらう場所があるから続くというのがあって、それがなかったら、その気はあってもまあ続かんですよ。

そしたらね、どないなるかと言うたら、自宅で練習て言うても、だんだん、だんだん手厚さが薄くなってくるし、お稽古する時間が減ってくるし。そうすると、動いてた指も動かんようになるし、肺活量もだんだ

ん弱くなってくるし、音楽の解釈もだんだん、ちょっとずれてきたり、忘れたりするかもしれんし、新しい曲は、なかなか身に付きにくいし…って、やっぱりなるんですよ。

じゃあ、出来てたことが出来なくなってくるし、吹けてた曲も、だんだん怪(あや)しくなってくる。なんとなく曲にはなってても、でも前みたいには出来んようになってくるんですよね。かといって、教室ずっと行き続けるっていうのも、楽しかったらええんでしょうけど、だんだん疲れるときもあるでしょうね。まあやっぱり、それでも継続は力なりですけど、続いて通ってると、通った分だけはやっぱり成長するもんでね。

で、これ習い事ですから、信心も。「おかげを頂いてよかった、よかっ

た」でやめてしまうと、やっぱりそこで、パッて止まっちゃうんですよ。頂いていたおかげっていうのは、頂けるような器が出来てただけの話で。でもこれだってね、一夜漬けみたいな人だって、やっぱいますからね、上手いことパッて作って。一夜漬けの人っていうのは、もうね、すぐにおかげを落としますよ。

一夜漬けを、ずーっと、しっかりとね、自分の中で定着させるだけの信心が続いたら、一年、三年、五年、また十年かけて、しっかりと自分の中に、腹に食い込んで、事に当たって出てくるぐらいまでやったら、そらまあちょっとやそっとじゃ、おかげっていうのは逃げて行きませんけれどね。でもやっぱり、続いてお参りをさして頂いて、信心をさして

頂くってことがないと、人間っていうのは難しいんですよ、それが。気持ちはあってもね、なかなか出来ないもんですね。

そういう意味じゃ、稽古場所のお広前（ひろまえ）があるというのは、習い事で言うたら、やっぱりありがたいもんでね。時には、面倒くさいこともあるんちゃいますか。「ああ、あるんです」…なんて、言いにくいでしょうけれど。

でもね、寒い日もあるし、朝、目が覚めて体も重いし。お参りするのももう疲れるな…あるかもしれませんわねえ。それでも、やっぱり時間を作って、お参りをさして頂く。毎日という人じゃなくても、遠方の人も、時間をかけて。

「もう自分おかげ頂いたし、それなりに一年二年参って、結構おかげ頂いたし、特にもうそんなにもう困ったこともないし。今月はお金もあるし、ちょっと旅行にも行きたいし。お金もないから、まあちょっと失礼して…あっ、そうや。台風来てるから、ちょっと行こうと思っていましたけど、台風があってちょっと行けませんのんで、また来月に」とかね。ちょっとズルをしようと思う気持ちが出てきたら、いくらでもズルできますからね。

で、今、お広前（ひろまえ）に参っている人は、こうして参っていますわねえ。これね、ＬＩＮＥ（ライン）っていうので、いろんな人が聞くようになっ

ていますでしょ。増えていますよ。百何十人かおるでしょうね。これから増えていくかもしれません。ＬＩＮＥ聞いてはる人に言いますけどね、「やー、ありがたいことやわぁ、今の時代は。こうやって遠く離れとっても、先生のお話が聞けるから、よかったわぁ。結構やわぁ」と思ったら大間違いですよ。今、聞いているあなたに、話しているんです。笑っているでしょう（笑）

九州だろうがどこだろうが、やっぱりね、まあ最初はね、足が悪いやなんやかんや言うて、病気をしてたり怪我（けが）をしたりとか、あるでしょう。転送に転送して、「先生、この人も聞かしてあげたい。聞かせてもいいですか」「いいですよ、どうぞ」。そやけどね、聞いて「なるほどー、あり

がたいなぁ」。それで信心しておかげ頂けるでしょう。

おかげを頂いたらね、ちゃんと参らんとおかげは頂けんもんなんです。パッと聞いてパッとおかげが頂けるのは、お試しですよ。お試しセットみたいなもんで、無料で配布しているようなもんですよ。それでおかげ頂いた。これでおかげずっと頂けるんや、と思ったらそれはあてが違うんです。おかげを受けたら、参らんといかんのんです。そこからしっかり参って、信心をさしてもらうということなんですよね。

この「参る」ということ自体が、信心の大事な大事な中身なんです。だって参るっていうのは、考えたらね、手間もかかるしね、時間もかか

るしね、人によったらお金もかかるしね、これ大変ですよ。でもね、それをさして頂くということ自体が、神様への真(まこと)を供えることになるんです。真というのは、神様への一筋さですよ。「神様、助けて頂いてありがとうございます」「神様、助けて下さい」という、そのお礼やらお詫(わ)びやらお願いのその真は、どこで表すんかと言うたら、そら、足を使うんですよ。

玉水(たまみず)教会の初代やったかな。おかげは和賀心(わがこころ)にありとは言うても「おかげはわが足にあり」と。つまり参るということです。これまあ教祖様だって、「おかげを受けたら、参らんとおかげはいただかれん」。

教祖様やったか二代様やったか、ちょっと忘れたけれども、参り信心

がおかげの頂きどころやっていう教えもありますよね。やっぱり参るというのは大事なんですよ、足を運ぶというのがね。運ぶだけでも違うもんですよ。

やっぱりね、家で勉強するっていうよりね、ちゃんと予備校の自習室に行って勉強してた方がね、やっぱり勉強できますよ。家でやろうかなと思うてもなかなか出来んから、ちゃんと休みの日でも、授業がなくても、土曜日でも日曜日でも、予備校が開いてんねんやったら、自習室は開いてるんやったら、そこに行って勉強する。環境ですよね。これ、すごい大事ですね。

で、お参りをさしてもらったら、ちゃんと神様に、これだけ手間暇か

けてお参りにきたんやな。おかげ頂きたいから、馳せ参じたんやな。

「お金もかかるし、時間もかかるし、何を言うても面倒くさいし。そんなんせんでも、話が聞けるんやったらこれでええわ」言うて。そんなね、適当な、ええ加減な信心をしていて、おかげが頂けるはずがないんですよ。

……。

この間が怖いでしょう。たぶんね、聞いてはったら「ハァー」と思っていると思うわ。でもね、これが大事なんですよ。大事やから私も言わ

して頂きます。

まあ、最後にもう一度み教えを読んでおきましょう。

「参るな、参るなと言えども、参らんとおかげは受けられんぞ」

「参るなと言うのは、参ってもおかげを受けねば、足がくたびれたり大切な金がみて（尽き）たりすれば、氏子（うじこ）、難儀（なんぎ）となる。それで金光が参るなと言うのぞ」

「おかげを受けたら、参らんとおかげはいただかれん」

とご説得下され候（そうろう）。

と書いていますね。市村光五郎（いちむらみつごろう）さんのお伝えです。

こうして今日はね、お参りをされている方は、こうしてお参りさして頂いて、結構なことでありがたいことです。遠方の方は、そら毎日参るってことはできませんけれども。でもまあ距離によって、週にお参り。自分にとっての距離がありますからね。尼崎市内だから毎日、と、それも必ずしもそういうことを言っているわけじゃありません。遠い近いというのだって、その人の事情であったり、体であったり、いろいろありますからね。でも、それはあくまで、遠いとか近いとか回数っていうの

は、私との関わりではなくて、その人と神様との間柄の問題で。私がとやかく言う気は特にはないですよ。

そやけども、大体のことは分かりますよ。だからやっぱり、遠方の人であれば、月に一度ぐらい。それもなかなか叶わん場合だってあります。それでもやっぱり、参らして頂くという心になって、なんとかお繰り合わせを頂いて、足を運ばせて頂いて、足を使って信心させて頂くということ。これはすごく大事なことやなぁと思います。

まあ便利な世の中になってきましたもんね。教祖様の時代だったら、もう歩くしかないですから。せいぜい船ぐらいですよ。でも、だんだんと便利になって、鉄道が走り、そしたらまあ、お参りがしやすくなった。

お参りしやすくなったことが、便利で、光の部分で、ええところでもあるし、それによって人間の堕落（だらく）な面倒くさがりの部分が出てくると、そこは信心を適当にさせるという、その人間の中のめぐりの働きが出てきますから。

だからね、まあ、ユーチューブでお祭りを配信するんだって、あるいは、こうして音声を毎朝届けて聞かしてもらう、これね、危ういんですよ。危うい、ということを覚えておいて下さい。

私も、危ういなということを思いながら話をしているのは、こうして、ちょくちょく私がね、喝（かつ）を入れるからですよ。お参りしている人にも、やっぱりこれでいいと思わずに、ちゃんとお参りにおいでや、と。

で、この人にはね、ＬＩＮＥで転送しても「あ、これ聞くようになったら、この人のことからして、きっと参らんようになるな」っていう人にはね、聞かさんようにしているんです。

だからやっぱり、おかげを受けたら参らんといかん、っていうそこを大事にさせてもらいたいなぁと思います。よくお参りでした。

（了）

津田昇平教話　第三話

令和三年一月三日　朝の教話

発行日　令和　三年八月十三日

発行所　金光教尼崎教会

〒六六〇―〇八九二

兵庫県尼崎市東難波町三―七―五

落丁本・乱丁本はお取り替え致します。